

はくぶつかんネット 68号

令和2年 4月~8月号
発行■宜野湾市立博物館



新年度早々不測の事態発生！！

ステイホーム・ソーシャルディスタンス・3密！？～見えない敵との闘い～



「新型コロナ」という耳慣れないキーワードが出始めた頃、こんな事態になると誰が思っていたでしょう。まさか新年度早々、感染拡大予防のため全国的に緊急事態宣言が発出され、臨時休館を余儀なくされるとは…。

昨年、開館20周年を迎え、新たな気持ちで新年度が始まり、年間スケジュールを見渡しながらか「今年度も色々な企画が盛りだくさんだなあ」と思っていたのも束の間、「新型コロナ」の猛威は劣ることなく、当館でも「色々な企画」の変更や中止が余儀なくされ、展示のあり方や見せ方もこれまで通りとはいかず、様々な変化が出てきました。

◇変更または中止となった事業◇

展示会(企画展)	一部中止・開催期間変更
博物館市民講座	定員減、一部中止・日程変更
わらば～体験じゅく	開始・終了月変更
こども博物館教室	延期後、中止
はくぶつかんネット	発行日変更

◆博物館ご利用に際するお願い◆ ～緊急事態宣言後～

- ご来館の際は、必ずマスクを着用していただきますよう、お願い致します。
- ご入館の際は、手指の消毒をお願い致します(消毒液は用意しております)。
- 体調がすぐれない方は、平熱であっても入館をご遠慮ください。
- 団体見学については、代表の方は3密にならないよう、ご配慮をお願い致します。なお、団体見学への職員による説明などの対応は、接触や飛沫感染防止の観点から、当面の間お断り致します。
- 展示室では感染防止のため、壁や展示ケースに触れないよう、お願い致します。
- ご見学の際は、他のお客様との距離を空けてご参観いただきますよう、お願い致します。
- 館内の入館状況から、必要に応じて入室制限を行う場合もあります。
- 館内のご利用については、一部利用制限があります。
- 市民講座は人数を制限して開催します。なお、受講者は受講前に消毒をお願い致します。



◆博物館におけるご利用の制限などについて◆ ～緊急事態宣言後～

- 現在、新型コロナ・ウイルスによる感染症を予防するため、常設展示室のタッチパネル、クイズのコーナーは、ご利用いただけません。
- そのほか、ガイドラインに沿った博物館からのお願い事項について、張り紙を掲示しています。
- 今後、新型コロナ・ウイルスによる感染症の拡大状況によって、ご利用制限を変更します。



ご利用にあたっては、ご不便をおかけしますが、ご理解いただきますよう、お願い申し上げます。



戦後75周年・慰霊の日写真パネル展

沖縄戦の中の宜野湾



今回は、宜野湾市を飛び出して、周辺市町村の激戦地・戦跡も紹介しました。

ちょこっと、その一部を見てみよう！

戦争の記憶を次の世代へ継承することを目的に、毎年開催している企画展です。今年も6月13日(土)～7月12日(日)まで開催し、戦前～戦後初期までの宜野湾の写真パネルを中心に、沖縄平和祈念資料館・西原町教育委員会・中城村教育委員会からご提供いただいた映像資料など243点を紹介しました。

コロナの影響もありましたが、期間中は956人の来場者があり、特に、市内のご家族やデイサービスの皆様にご覧いただきました。



161.8高地〈中城村〉

北上原の丘にある日本軍の陣地跡で米軍からは「ザ・ピナクル(尖峰)」と呼ばれていました。根元には地下壕、頂上には戦闘指揮所が造られています。戦闘指揮所は自然の岩に似せており、鉄筋の代わりに馬車軌道のレールなどが使われています。



旧村役場跡〈西原町〉

字翁長の重要書類の保管や戦闘中でも会議が開ける壕として造られました。戦後に書類が多く残されていたほか、発掘調査では頭がい骨の破片や砲弾の薬きょうなどが見つかっています。



クチグワガマ〈浦添市〉

激戦地であった浦添グスクのふもとにあり、入口の形が人の口に似ていることからクチグワガマと呼ばれています。沖縄戦では、仲間地域の住民が避難していました。

11/29(日)の市民講座「中部戦線をめぐる」で現地に行ってみよう！



令和2年度 夏の企画展

意外と知らない!?

身近な昆虫の世界

問題 下の写真のうち、昆虫はどれでしょう?

			
ヤエヤマサソリ	アシダカグモ	ダニ	ヤンバルトサカヤスデ (ヤンバルムシ)
			
ダンゴムシ	ザトウムシ	ウデナガサワダムシ 【宜野湾市指定天然記念物】	サツマゴキブリ

開催期間
7
がつ
25
にち(土)
〜
8
がつ
31
にち(月)

圖頭橋/琉球大学博物館(風樹館)



順調に始まった企画展に、まさかの展開が！！

はい。。少お〜し、嫌な予感にはしていたんです。今年度の夏の企画展は、元々オリンピックイヤーにちなんで“スポーツ”に関連した企画展を開催する予定が、新型コロナの影響でオリンピックの開催が来年に延期され、それに追隨して“スポーツ”に関連した企画展も次年度に延期し、代替案として“昆虫展”を開催すると決まった時から、予感にはしていたんです。でも、まさか開催して9日目から臨時休館になり、そのまま終了してしまうなんて予想をはるかに上回る出来事が起こるとは、誰が予想していたでしょう！！もう「アハハ。こんな事って起こるのね」状態です。

そんな貴重な！？8日間に今展示会を見に来られた282名の皆さんには感謝し、期間内に見学を予定していたのに、臨時休館中に今展示会が終了してしまい残念に思っている皆さんにはお詫びしつつ、いつかまた“リベンジ昆虫展”を開催したいと思っていますので、皆さんその時は、なるべく早めにご見学くださり、最終日間際にまた見に来るといふ新しい博物館見学の形でぜひともご見学ください！！また、昆虫標本などを貸していただき、全面的に協力してくださった琉球大学博物館「風樹館」にお礼申し上げます。

そして何より、まずは新型コロナの完全終息を願いつつ、その時を待ちたいと思います。



市史だよりがちまやあ
Gači-majaa

1945 年～1950 年

1945 (昭和 20) 年 4 月 2 日、宜野湾に達した米軍は、嘉数高地の激戦の後、6 月頃から普天間飛行場の建設を開始しました。しかし、同年 8 月に終戦となり、飛行場建設は一時中止となりました。この沖縄戦によって、貴重な歴史・文化遺産や役所を始めとする各種公共施設が破壊され、また字宜野湾等の集落は基地建設の為に敷きならされてしまいました。

普天間飛行場に関する記述が出てくるのは、1946 (昭和 21) 年 4 月 1 日の市町村制の復活以降であり、確認できる古い公文書として、『防犯々罪に関する書類』があります。その中から、沖縄総務部長からの通達文で「飛行場内住民立入禁止について」(1948 年 5 月 27 日付)を見ていきましょう。

歴史公文書から見た宜野湾

令和元年より宜野湾市の歴史公文書が博物館HPにて公開されているのは、ご存知でしょうか。今回、博物館所蔵の歴史公文書からみえる戦後の宜野湾市の歴史を紹介します。今回は普天間飛行場を取り上げます。



浦添市上空より宜野湾市を望む。中央の滑走路は普天間飛行場。1964 (昭和 39) 年

『宜野湾市史別冊 写真集「ぎのわん」』より

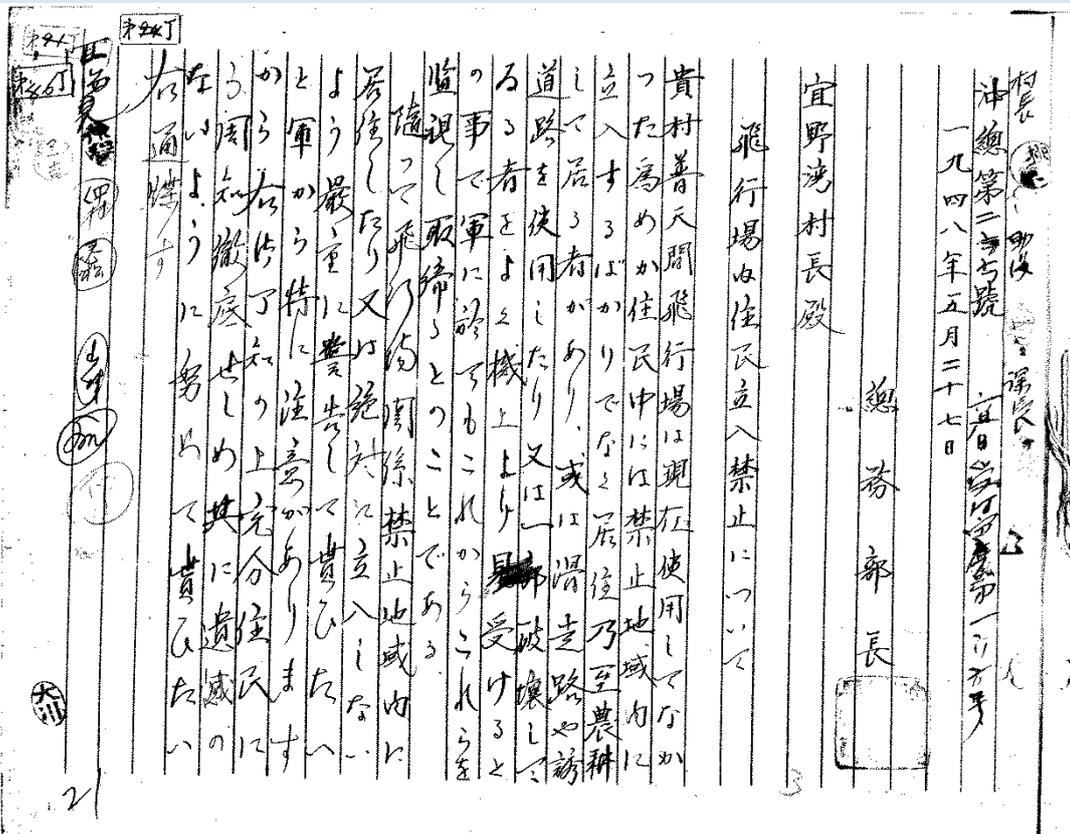


防犯々罪に関する書類
 1946 年 6 月 20 日～
 1957 年 12 月 12 日

1982 (昭和 57) 年、私が中学校の頃はまだフェンスが設置されていないで、野嵩から普天間第二小学校まで基地を横切り近道したものです。



この公文書から、ほとんど遊休状態の普天間飛行場に、住んだり、農業を行ったり、道路を掘り起こしたり、道路を利用していた村民がいたことが分かります。この頃は、フェンスがなく、簡単に基地に入ることができたようです。



普天間飛行場は、すぐには使用されなかったんじゃ、遊休化した普天間飛行場が整備・強化されるのは 1950 年の朝鮮戦争以降じゃ。



市史『伊佐浜の土地闘争・解説編(仮題)』のビジュアル版

編集現場から

米国人宣教師がみた伊佐浜の土地闘争

終戦後、日本からも「忘れられた島」となり、米軍占領下で孤軍奮闘していた沖縄について、日本全土に知らしめるきっかけとなった、1955(昭和30)年1月13日付けの『朝日新聞』の「米軍の「沖縄民政」を衝く」という記事をご存知でしょうか。その記事のきっかけとなったのは、実はオーティス・W・ベルという沖縄在住の米国人牧師の書いた文章(“Play fair with Okinawans!” *The Christian Century* Jan 20 1954)で、その中で米軍土地収用問題に揺れる沖縄の現状と、「米軍は、沖縄の人びとに対してより公平になるべき」といった意見を述べていました。それを目にした国際人権連盟議長の米国人ロジャー・N・ボールドウィンが、日本自由人権協会会長へ沖縄の人権問題の調査を依頼する手紙を書き、それを受けて調査した成果が先述の記事として全国紙で報道され、人びとの注目を集めたという流れのようです。

米軍占領下の沖縄の農村で起きている不条理について、現場の状況を目にした人が記録に残し、それをまた誰かが目にして、次の行動を起こし…と関心を寄せる人たちのアクションのリレーがアメリカを経由して、『朝日新聞』報道という一連のキャンペーンというかたちで、日米の世論を喚起する原動力になっていったのです。

まさに、「現場で奮闘する人びと」と、その姿を見つめるまなざしがいまって、世の中を動かす力になる。戦後初めて沖縄の人びとの不条理への抵抗として「島ぐるみ闘争」へとうごめくきっかけとなった「伊佐浜の土地闘争」もまた同じように、生きるために声をあげ続ける人たちの姿と、それを見つめるまなざしがあったという事を次の写真と共に紹介していきます。

現在、編集作業を進めています市史『伊佐浜の土地闘争・解説編(仮題)』のビジュアル版でも、当時の沖縄の現実に奮闘する多くの人びとに関する資料や写真を扱っています。

1950年代に沖縄に滞在していた米国人宣教師 Harold Rickard さんは、“The Okinawa Land Problem” (*The Japan Christian Quarterly* 37 (1) 1971) の中の、*The “Battle” of Isahama* 「伊佐浜の戦い」という項で、あの日、現場で見た状況について文章を残しています。

On July 19, 1955, I saw a village die. With it died the hopes of the people who had lived there. Seeing a village die is not a pleasant experience, even when no people are killed or injured, but we had been hoping to be present if such an incident again occurred.

1955年7月19日、私はある村が死ぬのを見ました。そこに住んでいた人たちの希望も、村とともに死んでいったのです。人が死傷していなくとも、村が死ぬのを見るのは気持ちのいいものではありません。しかし、もしまたそのようなことがあったら私たちは、その場に立ち会いたいと思っていました。

このような書き出しで、伊佐浜に関する文章が始まります。彼は、1955年7月19日の朝、伊佐浜の現場に立ち、村の様子を見つめ、写真を撮り(下の写真参照)、その場で見聞きしたことを記録していたのです。



ハロルド・リカード氏より宜野湾市立博物館に提供された写真。ハロルド氏の文章と、伊佐浜の様子などから、1955年7月19日午前8時頃に撮影された可能性が高いと考えられます。

Before 8:00 A.M. I arrived on the nearby rise of ground, took some pictures and went down to the side of the highway opposite the village to take my place and watch what was done. That was as near as I could get.

午前8時前に近くの台地に着き、写真を撮り、村の反対側の高速道路の脇に降りて、自分の場所を確保し、何が行われているのかを見ていた。そこは、私が近づきうる中では近い場所だった。

ハロルド氏『沖縄の土地問題』より、1955年7月19日に伊佐浜での様子を抜粋(下線は引用者)。

ハロルド氏は、沖縄の人びとの置かれている現状を目の当たりにして、ベル牧師や宣教師のバベリーさんと共に土地問題の現場である、小禄、伊江島、伊佐浜にも足を運び、人びとと会い、その様子を教会関係の機関誌などにこのように報告していたのです。ハロルド氏が1955年7月19日に伊佐浜の現場で見つめた姿は、この写真を通して、私たちも、今日にすることができます。

学芸員実習



常設展示を考えてくれました！
ご来館の際に是非ご覧ください！

学芸員実習は、学芸員（博物館で働く専門職）を目指す学生さんたちが取り組む実習になります。今年度は、8/12～8/25 とコロナの影響から休館の中での実習でしたが、資料の登録や職員を小学生に見立てて説明する研究発表等、実践的に取り組んできた13日間でした。

■大河内 萌さん（琉球大学）

今回の実習で、市立の博物館の現状と学芸員の大変さを学ぶことができました。常設展示の追加に携われたり、歴史公文書の実物を見ることができたり、とても貴重な体験をできて嬉しく思いました。実習を通しての1番の課題であった、調査研究の発表では、とても緊張しましたが、自分なりに良く出来たのではと思います。自分が将来、学芸員になるときは、今回の実習で学んだことを生かし、宜野湾市立博物館の方々のような学芸員になりたいと思います。

■藤 七美さん（琉球大学）

今回の実習で初めて博物館の業務を経験させていただきました。様々な業務を教えていただいた中でも、常設展示資料の追加と、資料登録、企画展の資料探しの3つが特に印象に残っています。常設展示資料はこれから長く多くの人に見ていただくものに携わるという貴重な経験ができ感動しました。資料の登録では展示されていない資料を見ることができる学芸員ならではの特権を味わうことができその楽しさを知れました。その一方で、企画展の資料探しでは収蔵の空き容量がもうないこと、資料の管理が代をまたぐと困難であること、といった現在博物館が抱えている問題にも直面し、大変勉強になりました。お忙しい中私たちのためにお時間をいただきありがとうございました。

■外間 千歌さん（琉球大学）

座学での博物館の様子と、実際の業務の様子は想像とは違い、やってみないとわからないことが多いと思いました。展示のために資料を収蔵庫から探す時、資料が多くて探すのに時間がかかったり、資料番号がかすれて読みにくいものもあり、効率的に資料が探せるように、整理は必要だけど、通常業務をしながらでは難しいという現状もわかりました。

実習の課題で「小学3年生へ展示の一部を紹介する」というものがあり、わかりやすく、小学生が飽きないように工夫するのが大変でした。宜野湾市立博物館では市民講座やわらば～体験塾など、地域との関わりがあり、地域の教育普及をしっかりと行っていると感じました。職員の皆さんは、質問ややってみたいことをサポートしてくれたので、有意義に学ぶことができました。

館長あいさつ

ハイサイ！ぐすーよー、ちゅーうがなびら！

4月より博物館長を拝命しました平敷兼哉と申します。ゆたく、うにげーさびら。

博物館には平成22年度に係長として異動し、あれから10年間、歴代館長と様々な取り組みを行ってまいりました。これまで博物館友の会の設立や登録博物館、常設展示室リニューアル整備、博物館開館15周年、20周年の記念企画展、小中学校への出前講座など、博物館事業の活発化を目標に取り組み、さらに平成27年度からは市史編集事業も加わり、宜野湾市の歴史文化情報の発信拠点を目指して進めてまいりました。

今年度は、館長就任と開館21年目のスタートとあって、新たな気持ちでまい進しようと志を立てた矢先、新型コロナウイルスの脅威に当館を含め、各地の博物館もかなりの影響を受けました。例年ですと企画展や教室・講座を開催し、多くのお客様に宜野湾市の歴史文化の学びの場を提供しているのですが、コロナの影響で催しの延期や中止、規模縮小、入場規制を行うなど、例年と相当異なった運営に戸惑いと心苦しさを感じていますが、新たな博物館の利用を模索しながら館運営を行ってまいりたいと思います。

来館されるお客様におかれましては、ご不便、ご面倒をおかけいたしますが、安心してご来館できる環境づくりに配慮しながら、スタッフ一同、心よりお待ちしております。

今後とも宜野湾市立博物館をよろしくお願ひ致します。

宜野湾市立博物館 館長 平敷 兼哉

☆今年度からの新職員です、よろしくお願ひします☆

◆宮城 英美（庶務担当）

今年4月から、宜野湾市立博物館で勤務することになりました庶務担当の宮城と申します。

まだまだ分からない事ばかりですが、宜野湾市の自然や歴史・文化などを学びながら一日でも早くみなさんのお役に立てるよう頑張りますので、よろしくお願ひします。

◆陣野原 知行（学芸担当）

今年、琉球大学の歴史学（東洋史）を修了し、4月から学芸係として勤務しております陣野原と申します。

経験が少なく、皆様に対して至らない点が多くあるかとは思いますが、宜野湾の歴史や文化の持つ様々な側面を感じていただけるように日々、マイペースながらも「1000%」の気持ちで頑張っていきたいと思ひます。よろしくお願ひします！

今年度の博物館 STAFF です！

平敷 兼哉（博物館館長）
田中 樹（学芸担当）
陣野原 知行（学芸担当）
大城 博美（市史編集担当）

伊藤 圭（学芸係長）
我如古 香（学芸担当）
比嘉 三紀子（市史編集担当）
宮城 英美（庶務担当）



皆様のご来館を職員一同、お待ちしております！

コロナ禍でもほっこり 博物館と生き物たち

博物館の周辺は自然がいっぱい！コロナの影響でバタバタしている博物館職員も、彼らのかわいい姿やおもしろい行動に日々癒されています♪



～はくぶつかん水槽日記～

市立博物館の水槽をご覧になったことはありますか？実は…、長く大きなハサミを持つ立派なテナガエビ（おそらくミナミテナガエビ）が育っているのです！

このエビは今年の春、伊佐の「ふんしんせせらぎ通り」から採集されて博物館の仲間になりました。水槽を覗く人に愛嬌(?)を振りまく彼ですが、どうやらいつも、誰も見ていない間に脱皮をしているようです。

ヨシノボリ



グッピー

8月に学芸員実習生のみんなが私たちの水槽をお掃除してくれたんだ～♪



ボクも水槽の仲間に入れるかな～？



▲ふんしんせせらぎ通り(伊佐)

8月24日(月曜日)

エビの体が白くなったので、「今日脱皮するかも！」と期待して近づくと、ハサミを振り上げ、こちらに猛突進！超攻撃的です。結局この日は脱皮せず…。

8月25日(火曜日)

朝にはエビの体は赤っぽく、抜け殻が側にあり、もう脱皮が終わっている～！いつのまに…(;_Д_)!!昨日の攻撃性はすっかりなくなり、夕方までには、体も徐々に黒っぽい色に戻っていきました。

～駐車場のアイドル♡～

よく、ご近所さんのミーニャちゃんが駐車場へ遊びに来ます。



なんやねん!

Zzz...



クワァー

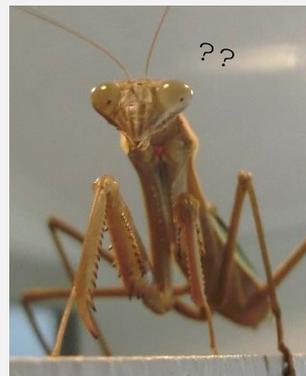
なかなかついてくれません(涙)



くつろぐ姿がモフモフでかわいい～♪

～お忍びカマキリ～

彼らは、事務所の窓やエントランスに、たま～に出没します。



とある日…

夕方の閉館時に、館内へ取り込んだ看板の上に発見！じっと大人しくしていますが、バレてますよ～(笑)

館内の資料管理のためそのままにはできません。撮影に協力してもらってから、自然へお帰りいただきました♪

博物館に遊びに来たときは、周辺や水槽の生き物も探してみるのじゃ☆



令和2年度 年間行事カレンダー

企画展	市民講座
<p>【戦後75周年 慰霊の日写真パネル展】</p> <p>沖縄戦の中の宜野湾</p> <p>6/13(土) ~ 7/12(日)</p>	<p>6/21(日) 史料からみるユタの成立と役割</p> <p>講師：高江洲 敦子(沖縄国際大学 非常勤講師)</p>
<p>【夏の企画展】</p> <p>意外と知らない!?身近な昆虫の世界</p> <p>7/25(土) ~ 8/31(月)</p>	<p>6/28(日) 野外 大山の自然観察</p> <p>講師：千木良 芳範(宜野湾市立博物館 前館長)</p>
<p>【地域との共同企画展】</p> <p>ぎのわんの“字”展 <small>ぬぬう いちゆ</small> 布織り美らさや新城 <small>あらぐしく</small></p> <p>9/9(水) ~ 10/25(日)</p>	<p>7/12(日) あの世からみる近世琉球社会</p> <p>~お墓を調べてわかる事~</p> <p>講師：宮城 弘樹(沖縄国際大学 准教授)</p>
<p>【琉球大学合同企画展】</p> <p>琉球大学資料にみる宜野湾(仮)</p> <p>10/31(土) ~ 11/30(月)</p>	<p>7/26(日) 野外 ぶらっと、博物館めぐり</p> <p>~恩納村博物館~</p> <p>講師：後藤 法宣・大城 弘也(恩納村博物館 学芸員)</p>
<p>12月~3月の間、空調機器の入替え工事を行うにあたり、当館は閉館いたしますが、市民講座は引き続き行っておりますので、奮ってお申し込みください★</p> <p>※市民講座は全て事前申込制です。各回、約3週間からの受付開始になりますが、詳細等は市立博物館のホームページまたは市報にてご確認ください。</p>	<p>9/20(日) 琉中交流史</p> <p>講師：山田 浩世(沖縄県教育庁文化財課史料編集班 専門員)</p>
	<p>9/27(日) 郷土の偉人! 佐喜眞興英</p> <p>講師：仲村 元惟(宜野湾市史編集委員会 委員)</p>
<p>みなさんのご来館お待ちしております♪</p>	<p>10/18(日) 沖縄の魔除けとまじない</p> <p>講師：山里 純一(名桜大学 教授)</p>
	<p>10/25(日) 野外 グスクツアー Part2</p> <p>講師：上原 静(沖縄国際大学 教授)</p>
<p>11/ 1(日) 野外 軽便鉄道の旅 Part2 ~糸満線~</p> <p>講師：波平 エリ子(沖縄女子短期大学 准教授)</p>	<p>11/ 3(火) 琉球大学合同企画展関連①</p> <p>講師：琉球大学職員</p>
	<p>11/22(日) 琉球大学合同企画展関連②</p> <p>講師：琉球大学職員</p>
<p>11/29(日) 野外 中部戦線をめぐる</p> <p>講師：平敷 兼哉(宜野湾市立博物館 館長)・ほか</p>	<p>11/29(日) 野外 中部戦線をめぐる</p> <p>講師：平敷 兼哉(宜野湾市立博物館 館長)・ほか</p>
	<p>12/ 6(日) 察度の時代</p> <p>講師：上里 隆史(浦添市立図書館 館長)</p>
<p>12/13(日) 野外 村獅子めぐり</p> <p>講師：伊藤 圭(宜野湾市立博物館 係長)</p>	<p>12/13(日) 野外 村獅子めぐり</p> <p>講師：伊藤 圭(宜野湾市立博物館 係長)</p>
	<p>1/24(日) 動物の骨から歴史を探る</p> <p>講師：菅原 広史(浦添市教育委員会文化財課 主任)</p>
<p>2/ 7(日) 考古学と自然科学分析</p> <p>講師：橋本 真紀夫(バリノ・サーヴェイ株式会社 顧問)</p>	<p>2/ 7(日) 考古学と自然科学分析</p> <p>講師：橋本 真紀夫(バリノ・サーヴェイ株式会社 顧問)</p>

宜野湾市立博物館

〒901-2224 宜野湾市真志喜 1-25-1

TEL : 870-9317 FAX : 870-9316

■入館料：無料

■開館時間：午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

■休館日：毎週火曜日、祝祭日、年末年始(文化の日、慰霊の日は開館)

